

○ 単元（題材）について

■ 目標

○家族との様々なかかわりや仕事の様子、自分のためにしてくれていることなどを考え、感謝の気持ちをもつとともに、自分のできることを考え、実行する。

■ プログラミング教育の視点

○フローチャートを活用して家庭での仕事の内容を正しい順序で行えるよう考えることを通して、「順次処理」などの考え方のよさに気付く。

○アルゴリズムを可視化する活動を通して、論理的思考を育む。

○ 指導計画

時間	主な学習活動	留意点
1	○かぞくの しごと しらべたよ ・日頃の家族それぞれの過ごし方について考え、それぞれの仕事について意見を出し合う。	・「しごとしらべ」の方法について、フローチャートを活用して手順を可視化することのよさに気付かせる。
2・3	・「しごとしらべ」の方法や調べる内容などについて理解し、調べる。	
4 <b>5(本時)</b> 6 7	○じぶんでも できるかな ・チャレンジする仕事を決める。 ・グループで仕事のやり方のフローチャートを考える。 ・グループごとに協力して、家庭でできる様々な仕事を体験する。 ・体験した仕事の振り返りをする。	・作業の手順（アルゴリズム）を他者に正確に伝えるためには「順次処理」の考え方が大切であることを、体験する仕事の内容を正しい順序で行えるようにすることで、体験的に理解する。
8 9 10	○ありがとうをつたえたい ・チャレンジした仕事について振り返り、これから自分にできること、続けられることについて、自分のことと家族のことに分けて意見を出し合う。 ・家族にどのようなことをすると喜ばれるか考え、意見を出し合う。 ・家族への感謝の気持ちを伝える。	

○ 備考 ←プログラミングソフト、タブレット、用具、環境、評価・評価方法、配慮事項などについて

○フローチャートを作るためのホワイトボードを用意する。(各グループ)

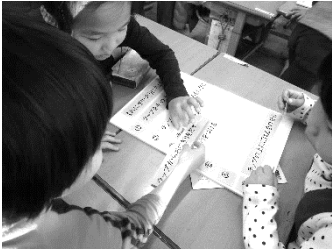

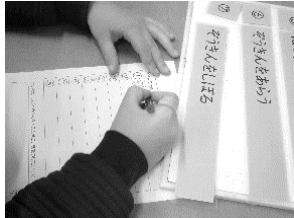
○マグネット付きカードを用意し、順次処理・デバッグを通した並び替えをやすくする。(各グループ)

**○本時について（5 / 10 時間目）**

○本時のねらい

\*グループごとに協力して家庭でできる様々な仕事の仕方を考える。

○本時の流れ

時間	●主な学習活動	○プログラミング教育の視点に立った留意点 ☆教科等の評価 ★プログラミング教育で育む資質・能力
5分	●学習課題を把握し、見通しをもつ。	
15分	●家庭でできる様々な仕事ごとのグループに分かれて、グループで仕事の仕方のフローチャートを考える。 	○仕事の仕方を書いたフローチャート用のカードを用いてアルゴリズムを可視化し、「順次処理」ができるようにする。 ☆家族の仕事を思い出しながら手順を考えている。 (思考・判断・表現)  ★「順次処理」の考え方のよさに気付いている。 (知識・技能)  ★フローチャート用のカードを用いてアルゴリズムを可視化し「順次処理」を行っている。 (思考・判断・表現)
20分	●グループごとに自分たちの仕事のやり方が正しいか確かめる。 ●変えたほうがいいところを考えて変更し、やり方を決定する。	○フローチャート通りに動いてみることで、プログラムのデバッグを行う。 
5分	●本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	

○備考

\*前時にチャレンジする仕事を決め、各自のフローチャートを書かせて確認し、仕事ごとのカードを用意しておく。

\*グループごとにデバッグを行う際、教員が机間指導をしてフローチャート通りに実行することで仕事ができるかを確認する。